

令和 8 年度第 1 回大船渡市部活動の地域展開ビジョン推進委員会 会議録

1 開催日時

令和 8 年 8 月 3 日(月) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 40 分

2 開催場所

大船渡市役所 議員控室

3 出席者

- (1) 委員 15人(別添委員名簿による委員・16人のうち)(欠席：大西元委員)
- (2) 市側 8人(別添「大船渡市出席者」名簿のとおり)
(事務局)

4 会議資料

別添のとおり

5 会議経過

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

司会者が全委員を紹介後、市長に代わり小松伸也教育長が、(委員を代表して)白崎陽彦委員に委嘱状を交付した。

(3) あいさつ

小松伸也教育長があいさつを述べた。

【要旨】

- ・ 本委員会は、当市の中学校部活動の地域展開を推し進めるための基幹的な組織として設置したものである。
- ・ これまでに地域展開に係る様々な事項を協議・検討し、かつ、本年度において、休日の運動部の部活動から当市の地域展開をスタートするに当たり、その原動力となった大船渡市立中学校部活動の在り方に関する検討委員会の後継組織としても位置付けている。
- ・ これらは、当市として、地域展開が「動き始めた」ことなどを踏まえ、取組の軸を「検討」から「実践」、「推進」へと移すべきと捉えた上での対応である。
- ・ 一方では、国、県、市とも、「動きながら進める」といったところが実情であり、実態であるとも言える。
- ・ こうしたことから、子供たちのスポーツ活動と文化芸術活動を地域全体で支えるという地域展開の根本的な理念の下で、関係者のよりどころとなるものが必要と考え、大船渡市部活動の地域展開ビジョンを整えることとした。
- ・ 部活動の地域展開は、多角的な観点での取組が求められる一つの「改革」であり、行政としての積極的な対応はもとより、委員を始めとする多くの関係者の御理解と御支援・御協力なくしては成し得ない。
- ・ 委員各位には、こうした諸事情を御賢察の上、地域展開の円滑な推進に向けて、相互の緊密な連携に意を配するとともに、忌憚のない御意見、御提言をお寄せいただくようお願いする。

(4) 説明【大船渡市部活動の地域展開ビジョン推進委員会設置要綱について】

市側の出席者紹介後、花崎誠教育次長が資料 1 により説明した。

(5) 委員長及び副委員長選任

委員の互選により、委員長に小松伸也委員、副委員長に白崎陽彦委員が選任された。

(6) 報告【当市の認定地域クラブ活動について】

① 事務局が、資料 2 により報告した。

② 質疑応答

【委員】

認定地域クラブの所管部署はどこか。

【事務局】

生涯学習課が所管している。

【委員】

「学校、部活動が担ってきた教育的意義の継承」とは何を指しているのか。
認定地域クラブに求めていることは何か。

【事務局】

「教育」の部分も担いつつ、スポーツ競技や、それらに特化しないクラブ活動に取り組む生徒の育成を図ることなどを目指すものである。

【委員長】

学校側として、部活動が担っている教育的な意義について、認定地域クラブに対して何を望んでいるのか。

【委員(中学校長)】

生徒指導の部分では、人間関係づくりやモラルを覚える部分で大事と感じている。

また、生徒の良さを伸ばしつつ、課題なども改善できるようになればと思っている。

部活動に参加することで、まじめに頑張るようになり、学校生活も良くなるということがあった。そういった点が伸びればよいと思っている。

【委員(中学校長)】

学校に多様な生徒がいる中で、部活動に関しては、自分が取り組みたい競技・文化芸術活動をとの志の下で集まった生徒たちが、同じ目的でもって取り組んでいる。

昨今の生徒数の減少に伴って、チームが編成できない、人数が集まらないといったことも生じており、同じ目的を持った生徒が楽しむ、一生懸命取り組める場が、地域クラブであればと思っている。

【委員】

今後、学校の関わり、顧問の先生のような位置付けが、地域展開になった場合にどうなるのか。

【事務局】

現在、休日の運動部の活動が地域展開している中で、先生方が兼職兼業届を提出し、引き続き認定地域クラブに関わるという仕組みを設けている。そのようなクラブもある。

【委員】

これからも、先生は指導者という形で地域クラブに関わるという考えでよいのか。

【事務局】

指導者については、必ずしも教職員が担うものではない。小学校世代のスポーツ少年団のように、地域の方が指導する場合もあり、様々な形が生じるものと思っている。

【委員長】

小学校でのスポーツ少年団活動から認定地域クラブ活動へとなると、窓口協議のようなことが必要と思っている。今後、小学校と協議しながら、連絡体制を考えたい。

(7) 協議【大船渡市部活動の地域展開ビジョン(案)について】

- ① 事務局が、資料３－１～３により、同ビジョン案の概要を説明した。

→ おおむね承認された。

- ② 質疑応答

【委員】

認定地域クラブに対する金銭的な支援はあるのか。

【事務局】

地域展開を進める上で、活動場所への移動手段の確保を一つの大きな課題と捉えている。移動手段の確保や大きな備品の購入に対して、例えばふるさと納税など、様々な支援制度の活用を考え、案として示した。

【委員】

中体連主催大会（中総体・新人戦）があり、勝ち進むと東北大会や全国大会に出場する。現在、そういう生徒たちに対する支援はあるのか。

【事務局】

上位大会に参加する部活動に対しては、一定の支援をしている。

認定地域クラブなどが、同様に上位大会に参加する場合にも、同じような対応ができないものか、学校教育課と生涯学習課で検討している。

支援制度については、国でも新しい支援制度が始まった状態であり。国や県の動向も見極めながら、様々な制度を活用した対応を広く検討したい。

【委員】

学校の生徒として学校名での登録で大会に出場するので、教育委員会からの支援があるのかもしれない。

認定地域クラブなどで出場する場合、その指導者が自費で全国大会に行くのかという心配がある。現在の学校に対するものと同じぐらい支援する計画はあるのか。

【事務局】

現在、小中学校体育文化活動大会出場費補助金があり、県大会、東北大会、全国大会への出場に際し、生徒の移動や宿泊に係る補助を実施している。

補助対象とする大会の精査などをするとともに、取り巻く状況を注視しながら検討したい。

【委員】

地域クラブの指導に当たる人の大会への帯同費用なども助けてもらいたい。

【委員長】

補助金についても検討しなければならないと思っている。

【委員】

何が課題なのか見だし、課題の解決に向けて話し合わなければならない。

すでに活動している認定地域クラブから、問題点の吸い上げのようなことができているのか。資金面や指導者の部分でまかない切れないなど、様々な問題があると思うので、それを吸い上げてほしい。子供たちへのアンケート調査などを行った上で話し合ってもよいのでは。

【委員長】

全国的に指導者、移動手段、活動場所の確保などが課題となっているが、当市の地域展開が動き始めている中で、こうしたことが問題になるというようなことを教えてほしい。

【委員】

バレーボールの認定地域クラブを設立し、指導しているが、一番の課題は、チームが存続できるかどうかである。

資料3-1の4ページにもあるが、部活動への参加状況に危機感がある。生徒数の減少と部活動の非参加率の上昇が続くと、クラブを作って受け皿とするものの、入ってくる生徒がいなければ存続できない。

メンバー確保へのサポートをお願いしたい。11ページ「3 生徒のニーズの把握及び地域クラブ活動への参加促進」にある、「地域クラブ活動などに対するニーズを把握し、その結果を反映させるよう努める」取組を具体的をお願いしたい。

小学6年生に対する中学校入学説明会の場で部活動を紹介するが、私たちの団体は、第一中学校の男子バレー部が母体となっているので、同校で活動紹介と体験入部を実施した。

しかしながら、同校生徒だけではメンバーがなかなか集まらない状況なので、他校でもPRしたい。認定地域クラブについて、市内全校で紹介・PRするような機会を設けてもらいたい。

当クラブでは、新人戦に向けて選手が6人いなければならないところで、1・2年生が3人しかおらず、新人戦だけでも協力をと働き掛けて、なんとか3人見つけたものの、中体連の主催大会に参加するためには、春の段階でこうしたチーム編成にしないといけない。

部活動が地域展開され、これまでは学校の先生が指導し、スクールバスもあるというところが、先生ではない人が指導して、スクールバスがなく保護者の送迎でとなると、小学校でスポ少に参加できなかった家庭が、地域クラブに参加するに当たってのハードルは、結構高いのではないかと。中学校入学の段階、部活動(認定地域クラブ)を決める段階までのサポートをお願いしたい。

【委員長】

中学校では、今年の部活動の紹介の場で認定地域クラブを紹介したのか。

【委員(中学校長)】

学校として認定地域クラブの説明はしていないが、ポスターは掲示している。

子供たちにとって、自分たちにどういう選択肢があるのか非常にわかりづらい現状にある。学校においても是非協力したい。今後の自分(生徒)たちの選択肢を可視化しなければならないと思っている。

資料3-2のロードマップを見た時に、令和10年度には地域クラブ活動開始となっており、今ある部活動。例えば吹奏楽部がどうなるのかということをや可視化しなければ、なかなか先に進まないのではないかと。

【事務局】

それぞれ御指摘は、もっともなことで捉えている。

ロードマップにも示したが、具体的な意見交換や交流機会の創出などは必要という認識で、その主たる実施機関、関係機関というものも明記した。

この地域展開ビジョン(案)を大筋で認めていただくのであれば、当面は教育委員会と協働まちづくり部で関係者に働き掛けながら、これをベースにして個々の課題解決に向けた動きを加速させたいと考えている。資料3-2の具体化に向け、皆さんと一緒に取り組みたい。

【委員長】

少子化によって、子供たちの選択肢はたくさんあるが、存続できるかできないかという状態の地域クラブもあるなど、今後の取組として、いかに子供たちに対応するかということもある。

新人戦が一番大変ではないか。3年生が抜けると急激に子供たちが減るので大会に出場できず、地域クラブであればなおさらということもある。そうした壁が大変だなと思っている。

【委員(中学校長)】

新人戦に出場できないケースは過去にもあった。もう少し柔軟に対応してもらえればありがたい。

【委員】

各クラブチームの紹介VTRのようなもの作って、メンバーの確保に努めるというのはどうか。文章で見せるよりも映像で見せた方が、今の子供たちの興味を引くと思う。

【副委員長】

「部活動の」となっているので、部活動＝「競技性、勝敗をつける」というようなところがあるが、地域展開の趣旨からすると、「大会に出場すること」などだけが地域展開ではなく、「子供たちがやりたいスポーツをやる場所を作ってあげる」ということもあるはず。

実際には、すでに地域クラブとして活動している団体もあり、スポーツ少年団として活動している団体もある。市内のスポ少については、昨年度の約40団体から、今年度は約30団体にまで減少している。その要因は、少子化でチームが組めない、スポ少登録の要件である「10人以上」を確保できないことなどである。

また、認定地域クラブ制度ができたことにより、スポ少から認定地域クラブに移行する団体もある。理由は、スポ少は、(上部機関などに)年会費や登録費を払わなければならないが、認定地域クラブは、市に無償で登録するだけでよいからである。

認定地域クラブとスポーツ少年団をうまく関わらせればよいのではないか。中学校単位での人数の確保が難しいという問題についても、中学生に限らず、小学校のスポ少の段階から一緒に活動しながら確保するといった対応も必要ではないか。部活動＝中学校という考えにはなるが、スポ少とも連携すればよいと思う。やりたい子供たちには色々なスポーツをやらせる。自分自身が選択できるようにすればよい。もう少しコラボすることが必要ではないかと思う。

また、現在、7団体が認定地域クラブとして動いているが、その状況を把握すべきである。

他委員の意見のとおり、本委員会で、「〇〇した方がいい」「〇〇していきましょう」ということを取り決めたほうがよいのではないか。

現場からすると、もちろんビジョンやルールは必要であるが、実際に認定地域クラブに対し、例えば運営費や講師・コーチに対する謝金などに係る支援があるのか、ないのかというところが知りたい。ないのであれば、次の手を考えようとなるが、国・県の補助が出るかもしれない、あるいは出ますという情報だけが入ってくるものの、どのようにすればもらえるのかといった実務的な情報が知りたいところである。

文化部の関係でも、スポーツも文化も同じ時期に進めなければならないし、もう少し込み入ったところを展開していかないと、ずっと検討で終わってしまうのではと思っている。令和10年4月1日からは、中学校から部活動がなくなって、(地域クラブなどとして)自立しなければならない。そこに向かう具体的な対応を示すべきではないか。

保護者にとっては、もちろん、保護者の協力は必ず必要となるので、支援の情報がいつ明らかになるかを知りたい。その点を早急に詰めてほしい。

【委員長】

それぞれの課題について、諸状況を確認し、委員の皆さんと「今後このように進めていったらどうでしょうか」というような話し合いを進めなければと考えている。

地域展開の取組は、全国的に実施されており、スポーツ部門については、

様々な良い例、あるいは失敗例もある。その中で、地域クラブ活動として、文化部門も含めてすべて展開する自治体のほか、スポーツ少年団活動を基盤として進める自治体もある。競技スポーツで、あるいはエンジョイスportsでと、二通りあるようだ。それぞれの種目の話にもなるだろう。

認定地域クラブとして活動している7団体の方々から、現状の具体的な課題を聞き取らないと前に進めないかなと思っている。

文化面については、受け皿のイメージとして、一つに芸術文化協会を考えているが、芸文協には茶道、華道などたくさんの活動がある。例えば、合唱や吹奏楽について、関連団体で受け皿になっていただけたらと思っている。関係者と話し合いを進めながら、「こういうことだったらできます」「第2・第4日曜日であれば、あるいは月1回だったらやれる」ということなどを見極め、是非中学生に来てほしいということであれば、周知してもよいかと考えている。

生徒たちは、市内の文化芸術分野の活動状況を知らないの、部活動の範囲でのイメージしかない。「できます」となれば、スポーツをしながらそうしたところに出向くことがあってもよいのではないかな。

認定地域クラブのことと共に、子供たちも親も知らない。どのような状況にあるのということをまず知ることが大事である。

【委員】

この地域展開というのは、地域の人たちでスポーツを教えてください、近所にいる子供たちに自分の知ってるスポーツを教えましょうということが、本来の目的だと思う。

今後、市内で1チームしか作れないような状態も生じると思う。そうなった時にスポーツ協会という組織があり、その加盟団体が、中学生をどうスポーツに取り組ませるかというところも含めて考える必要があるはず。

中学生なのでPTAが主体になると、中学校の3年間終わればその人たちが活動を離れてしまう。1回なくなってしまったものをまた作るというのは、すごく大変である。加盟団体である各協会はなくなるものなので、人数が集まっても集まらなくても、それぞれ協会で地域クラブを作るという取組ができるのではないかな。

子供たちにスポーツをやらせたい協会は手を挙げてくださいと話せばよい。陸上競技協会は、そのようにしている。市内あちこちでチームができると難しいので、協会として陸上教室をやりましょうという形にしている。こうしたことに関しては、スポーツ協会が働き掛けなければならないと思っている。

【委員】

少年少女合唱団を作って活動しており、ここでいう地域の文化的活動という位置付けに十分なり得るのではと考えている。

少年少女というと、小学生をイメージすると思われるが、中学生でも高校生でも構わない。今年度は、小学校にチラシとポスターを配布した。中学校へは、部活動との認識があったことから配布していないが、活動紹介の機会があれば話をしたい。受け皿として、地域文化の一つの活動ということで紹介させてもらえれば嬉しい。

週に1回、月に3回ぐらい活動している。ステージで発表する機会として、コンクールにも出場できる。子供たちの意欲によっては、そのような活動も可能である。

とてもありがたい地域展開の活動・計画であり、我々の活動を知らしめる手立てを考えなければと思っている。

【委員】

文化部に関して、合唱と吹奏楽では形態が違ってくる。合唱であれば、ピアノ

のある場所であれば練習ができる。吹奏楽の場合は、スポーツ部のような移動はできず、移動するとなると、トラック 1 台分の機材を積んで毎日移動しなければならない。そうするとジプシー楽団ではやっていけない。

一番の課題は、活動場所の確保である。例えば、第一中学校の場合は、地域玄関というものがあり、そこから入れば活動できるが、音楽室は、そこから行くことができない。

私も、認定地域クラブの申込書はあるが、認定地域クラブになってどんどん生徒に入ってもらえると、私共のバンドは、キャパオーバー・満員電車状態になる。そもそも活動場所がないと、申請できないので、今は申請していない。

活動場所さえあればと簡単に言うが、新しくとなるとお金かかり難しい。中学校を使用して活動を継続する場合、3年間でワンサイクルであり、父母会中心となると、その後も含めた一貫した活動ができないように思う。

社団法人化して法人格を得れば、財政面などで有利になる。吹奏楽は楽器を使うため、その更新などを考えると継続するのがすごく難しい。指導者の確保も重要である。スポーツ活動と同じ路線では進めないという自覚がある。

幸い第一中の吹奏楽には人数がそこそこあり、様々な地域イベントへの出演や定期演奏会の開催など、コンクール以外でも活動の幅があるが、他校はそうではない。活動を一本化して、法人格のところで学区を越えて運営できればというのが私の理想論であり、そういう方向になればよいと思う。その際には、当然、芸術文化協会との絡みも必要になる。

【委員】

社会人吹奏楽団として活動しており、本委員会の前身組織での協議・検討を受けて、中学生も入団できるように規約を改定した。今年の 4 月と 5 月には、小中学生を対象にした楽器体験会を開催した。私たちは指導の経験がなく、私たちも体験のような感じだったが、思ったより指導は大変だなと感じた。

私たちの団体は、中学生は入団できるが、資料 3-1・9 ページの 2(1)「地域クラブ活動の運営・実施主体の整備」の②に該当すると思う。中学生の団体ではないので、認定地域クラブには該当しないのではないかな。

吹奏楽コンクールの話があったが、吹奏楽は年齢などで厳密に部門が分かれており、当楽団は一般の部で登録しているため、中学生が入ったとしても、一般の部、大人と一緒に審査の大会にしか出場できない。中学生の大会になると、派遣の方法とか、考え方が違ってくるのかなと思っている。

また、吹奏楽の活動場所に係る使用料について、スポーツに関しては、(学校体育施設や市のスポーツ施設において)減免されるが、中学生が関わる場合、カメリアホールやリアスホール、魚市場、公民館などを借りる際に減免されるのか。

【事務局】

資料 3-1 の 10 ページに、中学校の部活動や認定地域クラブの活動施設として、市の学校体育施設及びスポーツ施設を記載した。

文化芸術活動を行う団体については、現在、各地区公民館やカメリアホールなどにそれぞれ登録し、使用料を減免している状況にある。この運用を基本的に継続し、文化芸術団体が認定地域クラブになった場合には、スポーツ団体、スポーツクラブなどとの均衡も考慮しながら、対応を検討しなければならないと考えている。

【委員】

資料 3-1・10 ページの(3)③の「その他」に、「閉校した学校の体育施設の活用についても配慮します」とあり、旧綾里中学校についても、せめて体育館を活用することができればと思うが、具体的な配慮の方法などを教えてほしい。

【事務局】

閉校した学校及び統廃合後の校舎、体育館などの活用を想定している。現在、小学校のスポーツ少年団が、一部の閉校施設、具体的には体育館を活用して、雨天時の活動などを行っている。

今後、認定地域クラブが、中学校区単位から広がって活動する場合、拠点となる場所は、必ずしも現在の中学校に限ることではないと考えている。活動場所として、立地的にどのような場所がよいかということも含め、閉校施設の検討も深めたい。

【委員長】

貸館関係で、スポーツ協会として何かないか。

【副委員長】

資料3-1・10ページの(3)③の「その他」に、「学校施設・備品などの活用に関する規程を整備します」とあるが、規程の整備の前に、備品を更新願いたい。バレーボールやバドミントンの支柱などは、20～30年経過していると思われ、安全面でも厳しい状況にある。学校としては多分使っておらず、学校開放事業として整備されたのではないか。

【委員長】

かつてそれぞれの小学校単位で女子バレーの活動があり、学校の体育館にそのための設備があった。おそらくその名残りかと思う。

【事務局】

そうした支柱については、学校において、ネット型での対戦型の運動において使用する。古いとの印象はある。

【委員】

本委員会について、今後の開催頻度をどのように考えているのか。

また、次回はこれを決めるということを決定してはいかがか。例えば、活動場所への移動手段に関することなど。

【事務局】

今回の委員会においては、本日の経過などを踏まえるとともに、県が10月下旬頃には新しい方針を提示するとの情報があるので、そうしたことを考慮した上で、地域展開ビジョンの最終案を示したいと考えている。

また、主要な課題への対応について、市から働き掛けて個別の協議・検討の場を設け、次回委員会には、何かしら、課題についての具体的な協議などをしてほしいと考えている。

時期的には、県の動向を踏まえることから、10月下旬以降に次回委員会を開催したい。

【委員長】

10月下旬以降に開催します。課題などについては、それぞれの状況に応じて個別で話し合う場を設けますというところである。

【事務局】

本日の協議を受け、こうした方向性が一定程度生み出せたということなど、主要な課題の中で、いくらかでも前に進んだ形で示したいと思っている。

【委員(中学校長)】

令和10年度完全地域展開となると、(時間的には)もう1年もない。運動部で言えば、本年度の新人大会がまもなくスタートするので、この子供たちが中学校3年生の夏になった時点で、次の新人大会に対応する人たちは、完全に地域展開になってないと、「令和10年度のスタート」が切れない。そのための予備期間が、もう1年しかないということ。

この地域展開ビジョンについては、皆さんOKだと思う。その先の具体的な

話をどうするのかという部分を11月以降、遅くとも今年中には出してやらないと厳しい。

子供たちは選択肢が多ければよいとは思いますが、部活動に所属している子どもたちの所属を何とかしてあげなければならないと思う。保護者による育成会に頼らざるを得ない部分もある。それぞれの育成会の会員に対し、認定地域クラブ化を進めませんかというような形で具体的に持っていかなければならないと思っている。

中体連の組織は、部活動顧問の組織体である。ただし、気仙地区はクラブ化が進んでいるので、特別ローカルルールとして、クラブチームの人も役員として、専門委員長になってもらいながら運営している。地域展開を進める上では、中体連主催大会ありきではないということを考えなければならない。他団体の主催大会に出場することも想定しながら、地域展開を視野に入れなければならない。

また、新聞報道などによると、令和13年度まで県も統一感を持って動きそうなので、そうなった時には、県中体連もなくならないと思うが、機能がストップする部分も考慮願いたい。

【委員長】

学校側から、子供たちに対する時間があるようでない、中体連そのものが、令和10年度からなくなるというわけでもないという話があった。

中体連に関して、地方大会は残り、全国大会レベルの上位大会についても、認定地域クラブとして出場することも想定しながら対応しなければならない。

また、教職員の兼職兼業に関して、先生方の関わり方がどうなるのかという課題もある。

当市の部活動は、もう令和10年度で終わりますよというふうに掲げているので、国のから令和13年度までにという形が示されているが、当市としては、令和10年度を目指して地域展開を進めたいと思っている。

それを目指す上では、一つ一つの課題について結論にたどり着くよう、あるいはそれぞれの課題について、現状がここまで進んでいるところを情報として集約し、協議するといった形で、定期的に本委員会を開催したい。委員各位には積極的に御協力願いたい。

大船渡市部活動の地域展開ビジョン(案)については、おおむね承認された。

本日いただいた生の声や御意見・御提言、話し合いの内容などを踏まえながら、最終案を整理する。

11月頃の次回委員会開催を目指し、県の動向を踏まえながら事務を進める。

(8) その他

【委員】

議事録(会議録)は配布されるのか。

【事務局】

会議録については、市で定めた審議会の公開等に関する指針に基づき公表する。委員の皆様にもお届けする。

(9) 閉会